

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第22回）

議事録

日時 令和2年2月10日（月）13:00～15:00

場所 名古屋城西之丸会議室

出席者 構成員

丸山 宏	名城大学教授	座長
仲 隆裕	京都造形芸術大学教授	副座長
高橋知奈津	奈良文化財研究所研究員	

オブザーバー

白根 孝胤	中京大学教授
山内 良祐	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主事
野村 勘治	有限会社野村庭園研究所

事務局

観光文化交流局名古屋城総合事務所
教育委員会生涯学習部文化財保護室

議題

- 1 名勝名古屋城二之丸庭園整備計画について
- 2 令和2年度修復整備工事について
- 3 その他

配布資料 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第22回）資料

<p>所長</p>	<p>本日は、ご多用の中、第22回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議庭園部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 今回の庭園部会は、「二之丸庭園整備計画について」はじめ2件の議事となっております。 また、部会終了後に、来年度の修復整備工事の検討箇所の現地指導をお願いいたします。 皆様から、貴重なご意見を賜りながら進めてまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 構成員、事務局、オブザーバーの紹介</p> <p>4 今回の議事内容</p> <p>資料の確認をさせていただきます。会議次第と出席者名簿が両面になったものA4が1枚。座席表A4が1枚。資料1としてA3が11枚。資料1の別紙資料がA4の両面で5枚です。 ここからの進行は座長に一任いたします。座長、よろしくお願いいたします。</p>
	<p>5 議事</p> <p>(1) 名勝名古屋城二之丸庭園整備計画について</p>
<p>丸山座長</p>	<p>今日は非常に寒くて、昨日も寒くて、京都はあられが降っていました。あとで、外に行って来年度の確認をしなければいけないので、風邪をひかないようにお願いします。 それでは名勝名古屋城二之丸庭園整備計画について、事務局よりご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、別紙資料をご覧くださいませでしょうか。前回の庭園部会で、確認すべき事項を、もっと調べたほうがいい事項、方針としてもっと詰めなければいけない事項について、課題として残っていました。そちらについての検討、確認の結果をご報告させていただきます。 ひとつ目、文献史料の検証についてです。白根先生の論文を参考にし、往時の庭園の利用を検証しました。(1)文献への記載が認められる茶室での饗応等と書かせていただいています。文献によると、霜傑や逐涼閣、多春園において、家臣や奥女中の方、親戚の方などと花見や饗応の席が持たれていることを確認しました。斉朝から家臣への植木の下賜が頻繁に行われていたことも伺えました。表の中で太い字で書かせていただいています。例えば文政4年、1821年の秋には、斉朝自身が霜傑の前の菊の花の咲き具合を確認したあと、奥向きの家臣による御庭拝見を同時に許可し、懐石料理などをふるまわれていたり、同じ10月19日には</p>

年寄衆に対して御庭の景観を拝見させたあと、霜傑で菊花を觀賞し、逐涼閣に移ってお酒や食べ物、お茶などを賜っています。さらに文政6年、嘉永元年となりますと、嘉永元年には美濃高須松平家の当主が二之丸へ訪問されており、二之丸よりも北側にある新御殿で、すでに隠居していた斉朝に拝謁したうえで、二之丸のほうにも渡って中を拝見したうえで、御茶屋で皿菓子や煎茶などを提供されていました。そちらについても文献の中で、御庭をまわっていた時のルートも3ページにありますが、ある程度わかってきています。新御殿が二之丸よりも北側のところになります。文献によると、船で新御殿から埋門まで渡ってきて、そちらから御殿の中に一旦上がったあと、梅之間から御庭に下りて、風信から橋を渡ってとなるので、朝鮮橋と書かれているのが、この位置ではないかと思えます。③の位置の橋を渡って余芳から山下御茶屋に寄り、さらに元御植木屋に行って、東御泉水と書かれていましたが、おそらく南池のことだと思われ、それから鹿山、霜傑に行き、中松御門から出て御馬場所から逐涼閣に移って、多春園のほうへ行って、また埋門から降りていくというルートが確認できました。

4ページをご覧ください。こちらについて、具体的に饗応や菊をご覧になったなどの、御庭の中でどのようなことが行われていたかという場所を示したものです。梅之間や植木屋、霜傑、逐涼閣、多春園などがポイントとなって、御庭を家臣や親戚の方がご覧になる時に、まわる時のポイントとしてひとつわかってくるのかということを整理いたしました。

5ページ目は、中御庭と植木屋のことに関する検証です。中御庭の絵が、尾二ノ丸御庭之図と御城御庭絵図とで描かれている姿が異なります。6ページの図で、比較できると思えますが、こちらの違いについて、なぜ違うのだろうということが疑問になっていました。先ほどの美濃高須松平家の当主が御庭拝見にいらっしゃった時に、元植木屋という言い方をされていました。これによって、ひとつの考え方として一度は植木屋として造られていたものが、斉朝が隠居することにより新御殿へ移ったので、こちらが元植木屋になって、元植木屋の時代には尾二ノ丸御庭之図のようなかたちになったのではないかと考えています。基本の方針どおり、中御庭の植木屋については、御城御庭絵図に描かれている姿で復元を目指し、復元整備を考えていきたいと思えます。

続いて名古屋市内の擬木の構造物について、前回栗野先生から擬木の構造物を考えるうえで、名古屋市内全体の擬木の構造物について確認したうえで、二之丸の擬木の方針を確認したほうが良いとアドバイスをいただきました。確認した結果が、7ページのこちらになります。名古屋市内の古い擬木の構造物について、ひとつ目が東山植物園です。洋風庭園の重要文化財温室のそばにあるきよみ池に架かっているきよみ橋がありますが、高欄が擬木のかたちになっています。現在も残されており、元々は昭和12年の開設の頃から設置されていますので、戦前からのものということが確認されています。これについては、東山動植物園「洋風庭園あり方懇談会」の中で現状の橋を保存していきますという方針が示されています。今後も保存されていくものと認識しています。もうひとつ②番の揚輝荘については、大正から昭和にかけて造営された別荘になります。擬木の構造物としましては、北園の擬木の橋、聴聞閣という建物の手すりと同じく、昭和4、5年、12年とか戦前のものです。こちらについてもヒアリングをしてみると、現況のままの橋を保存していく

方針ということを知りました。これら市内の2か所については、保存の方針ができています。

8ページをご覧ください。名古屋城内の擬木の構造物について整理したものが、8、9ページになります。名古屋城内にいくつかの形状のものがあります。その中で、主なものを整理するだけでも5種類あります。特に、二之丸の南蛮練塀の前にあたるところが擬木のAになります。擬木のAを調べたところスライドをご覧ください。昭和42年に出版された名古屋城叢書の中に2種類の写真が載っています。向かって左側は南蛮練塀だけが撮影されており、向かって右側には擬木の柵があります。擬木の柵がない頃の写真を撮影したのが、名古屋市の職員がここに出入りできるようになった頃、名古屋市に管理が最初に移管された昭和40年から42年までの間と思われる。おそらくその頃には擬木柵はなかったと思われる。ただ、この本が出版されたのが昭和42年11月ですので、その頃になると擬木柵も整備されてこの姿になっています。このことから、南蛮練塀の前の擬木柵は昭和40年代の初期に設置されたものではないかと推測しています。擬木柵のBは、明らかに新しいものだが、と見ていただいた時にご意見をいただいたことがあります。設置年代ははっきりわかりませんが、昭和50年代に擬木柵224m整備、ということが書かれています。土塁とあわせてこれだけの延長のものを整備している場所となると、こちらの可能性が非常に高いのではないかと考えられています。擬木柵のCとDは、同じく新しい印象をうける造りになっています。今の時点では、設置年代ははっきりわかりません。擬木Eについては、昭和24年に撮影された写真にはありませんが、昭和35年の写真にはありますので、戦後のものと考えられます。栗野先生は今日ご欠席なので、この結果を事前に見ていただき、ご意見をいただきました。戦後のものであると確認されているのであれば、積極的にその擬木柵を保存することはしなくてもいいのではないかと。あえて積極的に撤去するということは言わなくてもいいけれど、大事に保存していかなければならないという方針ではなくてもいいというご意見を伺いました。

最後に3番、石造物についてです。前回の庭園部会で、検討の方向性、方針の大きなところについては、ご説明いたしました。改めて、復元を優先すべき箇所としては、こんなところが考えられます、と整理したものが10ページです。大変たくさんの数の石造物が御城御庭絵図に描かれているので、その中でも優先的に復元を検討するものとして、茶室、建造物、石の橋などの関係性が深いものや、点景となってその空間を象徴するもの、特に珍しい、二之丸ならではの特徴的な意匠のある石造物を優先的に復元していくことを考えています。数でいいますと、最初に整備された段階では10分の1程度を目指すものとしています。事業として、いったん復元の数の目途は10分の1ですが、その後も機会があれば引き続き整備を続けていって、いずれは絵図に近い姿を目指していく姿勢でございます。

続いてA3の資料1をご覧ください。1ページ目、地割区分別基本方針ですが、前回外縁西について、外縁西と外縁東について考え方を区別したほうが良いと思う、というアドバイスをいただきました。前回の地割復元と遺構表示から基本方針を、外縁西は復元整備に改めました。こちらの地割に基づいて、2ページ以降に各地割ごとの整備方針や主要な構成要素の整備方針、将来的課題を整理しています。数が膨大になりますので、私どもが思っている、特にご意見をいただきたい部分のみに絞

ってお話させていただきます。北園池については、石組の護岸修復や護岸目地補修などとともに、水景については池底の三和土を修復して、水を溜めていきたいと考えています。その際に、前回ご説明させていただいたように給水機能も整備し、ここに水を溜めて池としての姿を見せていくことを考えています。築山群や栄螺山、笹巻山については、前回、築山地形の修復について、きちんと忘れないで書いておくようにとアドバイスをいただきましたので、そちらを書かせて頂いております。築山群の中の二子山についてですが、園路で飛石の修復（露出）と書かせて頂いております。延段などについては、保護層を設けたうえで新たに復元ということを考えております。二子山のまわりについては、飛石を露出のかたちで見せていったらどうか、というご意見を以前いただいたと伺っており、そのように書かせていただいています。余芳については移築、再建と建造物に書かせていただいています。同じく風信についても、将来的な課題として建造物の一部再建を目指していきます。風信については、一部再建の可能性のあるくらいの段階ですので、将来的な課題としています。さらに、このまわりの周辺整備については、先行して行うと移築、再建のタイミングのときに工事がやりにくくなりますので、周辺整備については移築、再建とあわせて行うことを計画しています。

続いて東御庭のページをご覧ください。東御庭については、まず霜傑の部分について延段ですとか、地形的な園路の部分については保護層を設けて、遺構を保存しながら復元していくことを考えています。建造物として、余芳の建物は遺構表示を行います。今後の活用の拠点のような使い方ができないかということ想定し、全くの平面表示ではなく、床高での復元ができないかと考えています。権現山下御席については、路地としてご覧いただけるかたちでの復元を目指しています。建造物は、平面的な遺構表示で、まわりを垣根や木柵などを復元し、一部石造物なども復元し、建物のまわりの様子をご覧いただけるように整備したいと考えています。東園については、絵図に基づいて地形を復元したり、築山を復元したいと考えています。植栽については、御城御庭絵図では蛙山南側のドウダンツツジの列植は記載がないですが、尾二ノ丸御庭之図では、凡例も含めてドウダンツツジが記入されています。ドウダンツツジなどの列植も復元したいと考えています。一方で霜傑のほうになると、御城御庭絵図ではモミジも群植されていますが、尾二ノ丸御庭之図には描かれていないため、扱いについて検討しているところです。霜傑で菊の花の拝見をしたときに、モミジのことについては特に記入されていません。どちらも、東園のドウダンツツジの列植と同じように、尾二ノ丸御庭之図に、今の段階では基づいた計画案として描いてあります。モミジのない状態で描かせていただいています。

次のページをご覧ください。南御庭・中御庭です。南御庭については、絵図のかたちの庭園の、池のまわりの姿に戻したいと考えています。前回もご指摘いただいたとおり、発掘調査の結果を踏まえてですが、まわりの園路など地形を復元しつつ、遺構の高さなども確認できれば、そちらをふまえたうえで復元したいと考えています。こちらについても池底の修復を行ったうえで、給水機能を復元整備して池としての姿も見せていきたいと考えています。まわりの護岸や築山などの整備についても、復元整備の方向で考えています。中御庭については、先ほど史料の検証でご覧いただいたとおり、植木室などが使われておりましたので、そういった庭園文化を見せる場としての活用も考え、植木屋の部分について

は床高での遺構表示を行いたいと考えています。

続いて外縁西についてです。この間、南蛮練塀についてご意見をいただいたときに、まわりの建物とセットで今後の取り扱い方針について考えるべきだ、というご意見をいただきました。南蛮練塀の取り扱いとともに、こちらの方も考えていきます。逐涼閣や迎涼閣については、建築の復元ための史料が揃っていない状況なので、調査を引き続き行い、その結果をふまえたうえで、将来的課題の中に建造物の復元を検討していくものとして挙げさせていただいています。逐涼閣のまわりについては、植栽や生垣などは復元し、まわりの様子についてご覧いただきながら、かつてはここにこんなものがあったということをお知らせいただけるようなものにしたいと考えています。

6ページをご覧ください。外縁東については、発掘調査を行ったあとで、改めて地割や植栽を復元し、かつてここに何があったかわかるようなかたちにしていきたいと考えています。建造物は、平面的な遺構表示で考えており、説面板を設置することで何があったということをお客様にわかっていただけるようなかたちにしたいと思っています。

7ページ目、二之丸御殿跡・近代前庭です。近代前庭につきましては、今の近代の遺構を現状保存していきたいという方針で考えています。その中で傷んでいる部分、なくなっているのではないかとこの部分については、修復や復元を行いたいと考えています。二之丸御殿跡については、御殿跡の遺構表示を考えていきたいと思っています。このときの二之丸御殿の根拠については、御城二之丸図に基づいて御殿の姿を復元、遺構表示を行いたいと考えています。8ページに二之丸御殿跡の指標史料についての選択理由をお示ししています。「御城二之丸図」を指標に選んでいる理由は、二之丸全体が描かれており、庭園と建物との関係性を考えることができること。制作年代が天保13年以降であり、斉朝による庭園の拡張時期に近いこと。部屋の名称がそれぞれ書かれており、遺構表示の対象検討に適していること、などから選択しました。建造物の整備方針の中に、灰色で二之丸御殿跡の区域が書いてあります。遺構表示ラインとして紫色の線を囲っています。二之丸御殿跡は今後、二之丸全体の整備を行ううえで、南側については取扱いを、そちらの中で検討していくことになります。まずはこちらの御庭と御殿との境がどこであったかを示すということで、紫色のラインのところを示したいと考えています。建造物の整備方針の中で、移築・再建としているのがオレンジ色の余芳と風信の箇所。将来的に復元を検討していくものについて、逐涼閣、土蔵、御文庫。土蔵と御文庫については、迎涼閣とセットで考えたほうが良いというアドバイスを前回いただきましたので、あわせて同じ緑色にしています。同じく緑色で丑寅隅櫓も塗ってありますが、二之丸全体の整備を考えていくときに、また改めて検討して詰めていきたいと思っています。霜傑と植木屋については、赤色で遺構表示（床高想定）と書いていますが、活用の拠点として使うことを考えて、まったくの平面ではなくて少し上げたかたちでの遺構表示を考えています。それ以外のものについては平面表示とし、青色でお示ししています。

9ページは、公開計画検討図です。先ほどの文献史料の検証の中で判明してきた、江戸時代の二之丸御殿の使われ方をふまえ、植木屋、霜傑、逐涼閣、多春園などについて、かつてそのような使われ方がされていたと紹介できればと考えています。御庭の中の説明板設置方針を書いています。御庭の中にむやみに説明板を増やしても、ということがありま

	<p>す。全体の中で、ここは現地に説明がほしいと考えたところを書いてあります。建造物、構造物については、これがどういった建物であったかということを示すようなものを作りたいと思います。赤紫色部分が特徴的な空間、特筆すべき遺構が見つかった場所について、説明板を設置したいと考えています。</p> <p>整備計画について10ページをご覧ください。今後の事業の進め方、修復整備工事や発掘調査の計画について整理いたしました。2ページに分かれています。左上、左下、右上、右下の順をご覧ください。まず左上の第1次工事-1が、これまでに進めてきた修復整備の工事の内容を図示したものです。第1次工事-2が、令和2年度から進めたいと考えている修復、北御庭・近代前庭を対象とした修復整備、余芳移築、再建工事などについて書いてあります。第2次工事以降については、主に造成のエリアで書いてあります。まず東御庭と中御庭についての整備を行い、第3次工事で南御庭、第4次工事で外縁西を中心としたエリアと、そこから連続してくる北御庭の部分、第5次工事で外縁の東側と庭園の構造物、第6次工事で二之丸御殿跡、という順で案を作成いたしました。この工事を進める前に、整備を進めるエリアについて、前の時点で発掘調査を行うことを考えています。そちらについては文字でお示ししています。例えば、第1次工事-2では発掘調査として、第2次工事箇所の範囲の庭園區画の確認、外縁西部分の遺構の確認、東御庭の発掘調査などを順に進めていきたいと考えています。</p>
丸山座長	<p>かなり細部のものだから、時間をかけて検討していただきたいと思います。ご質問、ご意見ありましたら、お願いします。</p> <p>植木室(しつ)と言われていたけど、植木室(むろ)かと思います。ここで植木や鉢植えの養生をしているのかなという気がするのだけれど、どうですか。言葉の使い方は、またあとで。寒さ対策とか、そのための施設ですね。</p> <p>少し気になっているのが、二子山のところはかなり掘り込まれて、もう1回埋め戻していますよね。造成計画の中で、すでに整備がされているようだけど、実際はされていないところが結構あります。山がやせているところあります。そういうところは、どこで再度検討するのか。最後のほうに造成計画と書かれていますけれども、第1次工事の。その中で、それまで部分的に整備を行ってきたところも含めて、全体の造成みたいな図面がどこかではあるのではないかと思います。それは、各工事区がありますけれども、外縁部はどこまで遺構保護のために覆土を入れるのかなど、ざっくりやったあとでもいいかもしれないですけど、最終的な全体の造成計画と排水計画というのが必要だと思います。造成はあるけど排水計画がないので。山があつて、池の、降った雨は池に流したらいいと思います。池も周辺の下層植生がしっかりすれば、そんなに汚れるとは、最初は多少汚れるかもしれないですけど。そのあたりが少し不鮮明かなという気がします。</p> <p>栗野さんが言われた昭和40年代以降に擬木柵が作られたとなったら、それは撤去して、築地塀を復元するときにはそうせざるをえないかなと思います。位置をどうしますか。保存する、どこかで展示するみたいなことがあるのか。近代といえども、ここに関わった人が、結構繊細な擬木もあるので。そういうのをどうするのか、少し気になります。</p>

事務局	戦後のものですので、栗野先生に伺ったところでは、積極的に保存する必要もないのでは、ということをお伺いしました。
丸山座長	<p>2重に保存して土塀とかを、整備するときには取らなければいけないと思いますけれど。撤去したあとにゴミにするのか。そうではないですよ。</p> <p>石造品をどんどん増やすというのは、無理かなと思っています。数量的に石造品の10分の1を復元すると言われたけれど、ないものを造ってもらうとなると、かなり費用がかかりますよ。この前も全体会議で言いましたけれど、石材バンクというか、いいものは寄付してもらえらる仕組みを、前にもお話ししましたが。いちどに造るのではなくて、何年も、10年、20年かけて、市民が関わられるような仕組みを作っていく方がいいかと思っています。</p>
仲副座長	<p>全体的に課題がよく整理されて、将来どこまでやっていくのかが図示されて、ありがとうございます。</p> <p>丸山先生がさっき言われた、まず全体、完成後といいますか。部分、部分で施工して行って、途中で盛土の厚さや高低差などで、統一的な基準がずれてしまうことがないように、事前にシミュレーションをとということだったと思います。現時点で遺構面等の確認できていなくて、設定できないというところはあると思いますか。東御庭の遺構面は一度、何か所かありますよね。</p>
事務局	東御庭は昭和の時代に一度掘ってはいます。その部分がはっきりと、確実にこの数字ですといえる状態で資料が残っていないので、改めてそこは第一次工事を行っているうちに、発掘調査をやり直さなければいけないと思っています。
仲副座長	<p>そうですね。第1次工事中に、第2次工事に先立って発掘調査を行う計画のようですが、その段階の中で検討していくということですね。時間的には、それで間に合いますよね。</p> <p>それと給水ですが、二之丸庭園の北御庭と南御庭の部分は水を戻していくということでしたが、どうでしたか。水源は、今のところどこを想定されていますか。</p>
事務局	水源は、発掘調査では見つかっていないので、給水官を引いて入れていくのと、雨水を溜めるようにすることを考えています。前回、仲先生から雨水を直接入れると濁るおそれがあるのでは、というご指摘をいただきました。まわりの築山に芝生を貼ったり、直接土が流れていくようなことをなるべく防ぐ手当をし、雨水も使いながら、ということにさせていただきたいと考えています。
仲副座長	<p>天水を使わないといけませんが、どういう使い方をするかというところで、当時のシステムに倣えれば一番いいわけですが。当時どんなかたちで天水を処理していたかを調査の中で見ながら、当時とは状況も変わっていますので、雨水を有効利用するために、今回どうふうに扱うか。一応2段階考えていただきたいです。特に南御庭は、東</p>

	<p>のほうの広大なところに降った雨水を集めて、浄化して入れていくのが合理的な使い方だと思いますけれど。そのあたりのことも発掘調査と並行して行っていただければと思います。整備計画の中で計画を立ててもらえればと思います。</p>
丸山座長	<p>余芳風信を再建、復元して、園内に持ってくるので、防火関係の、防災関係とか、防火のための施設は、文化庁も気にされているので。そういうことも含めて、それと水の補給というのは考えていかなければいけないと思います。ほかの建物は、今のところは、上物は造らないですが。そういう防災・防火関係のことを少し考えておかないといけないと思います。</p>
仲副座長	<p>今回かなりの数の新たな植栽が出てきます。近年の降雨の状況をみると、一度に降ったり、全然降らない時期が続いたりして不安定です。植栽用の散水の設備の検討も必要です。</p>
丸山座長	<p>造成すると、だいたい水関係、電気など設備関係が全体でどうなるのかというのが、いると思います。今回どこまで正確なというか、活用ということを考えると園内の中に例えば照明設備としてぼんぼりなどもありますよね。そういう電気関係も。前回もそういう話が少し出たと思います。今回はどこまで整備計画として、書き込むのか。</p>
事務局	<p>前回の庭園部会で、設備計画検討図をご覧いただきご意見をいただきました。今日の資料にはないですが、中間部の時点ではそういったものも付けて、ご意見いただいた分は反映させてご覧いただけるようにしたいと思います。</p> <p>その際にはイベントのときの活用を考えてというのが、散水などのことも反映したうえで作っていきます。</p>
高橋構成員	<p>文献史料から当時のルートが細かく復元できたのが、おもしろい成果があったと思ってお聞きしました。そういう成果を活用していこうと考えたときに、埋門の周辺というのが、入口として使い勝手のある場所になるのではないかと思います。整備の順番からすると、今回の資料ではだいぶあとに計画されてきていますがそれでよいでしょうか。埋門の周辺は南蛮練塀も入ってくるとは思います。</p>
丸山座長	<p>ここは南蛮練塀ではなくて、築地塀ですね。</p>
高橋構成員	<p>南蛮練塀は入っていない。埋門周辺は築地塀ですか。</p>
丸山座長	<p>南蛮塀は北の部分です。</p>
高橋構成員	<p>埋門は二之丸御殿と一緒に位置になるということでしょうか。どちらにしても、こちら側の西側のほうはあとに計画されています。南蛮練塀については、それまでそのままにしておくことになると思うので、そのあたりをどう考えるのか。というのと、エントランスを、今のところ南側を中心に設定していますが、当時の入口について考えると、そういう</p>

	設定でいいのかなというところに検討の余地があると、少し思ったところです。動線は限定しすぎない方がいいですか。
丸山座長	これは、当時どう使われていたかということであって、今回のこととは少し違う。近代の庭もできているし。そこは内容のところ。ただ使われ方が、白根先生の論文などに書かれて、なかなか庭の使われ方がよくわかっていませんでした。そういう意味では、貴重なものだと思います。もう少しソフトというか、ここに来た人に、こういう庭で、当時こういうふうに使っていたと。
高橋構成員	庭園部分と外側とを区画する塀は、それぞれのエリアごとにたっていくようなイメージですか。
事務局	それぞれ区画を作るごとに、塀を作っていきます。
高橋構成員	造る塀をまわしていくということですね。
丸山座長	東側の築地塀の位置がわかれば、今回、発掘からそれを出してもらおう。こういう整備計画の中では、維持管理のことも考えないといけないので。例えば先ほど、水は溜めるけど浚渫みたいなことがありますよね。そういう管理上、バキュームカーでやるのかわかりませんが。そういうことを最初から考えておかないと、いろいろな建物を造ったあとで、ほかのところで築地塀をつぶして、もう1回そこからトラックを入れたという話がよくあるので。この時点で池に水を溜めて、5年に1回とか浚渫する場合は、どうやって行けるか考えておかないといけないです。また同じように別のところで築地塀を造ります。今回、トラックが来たときはどうするのか、また決まらないので。そのあたりは今から整備計画の中で、盛り込んでもらわないといけないかなと思います。
高橋構成員	管理用道路ということまでは、あまり考えすぎないほうが、この場合はよいでしょうか。
丸山座長	そこまで考えてもらわないといけないと思います。構造物をハードに造っちゃうと、そこで車が行けなくなる。そのあたりも重要なことだと思います。当時だったら、どうってことないけれど、今はそんなことできないですから。人夫さんが全部やるわけにはいきませんから。 難しいのは、近代の今ある庭とうまくすり合わせるところが、うまくいくように描いてくれていますが、そのへんのやり方が腕の見せ所というか、この中では重要なところだと思います。 今ある御茶屋というのは、どうするのですか。現状の中で活かすのですか。
事務局	8ページに記載してあります。今ある二之丸茶亭のところですけども、二之丸茶亭がこちらにあることについて、建物としての耐久年限のうち、城内で唯一の一般の方にお茶をサービスできる場所です。これを建てる時も、かなりいろいろな方にご意見をいただきながら、この場所に決めて、この姿に決めた経緯がわかってきました。そういうこと

	<p>もふまえ、建物の耐久年限までは使わせていただいたうえで、その後以前あった二之丸梅之間の意匠を踏襲した、サービスのできる施設ができたらと、検討しています。梅之間の姿自体は古写真で遺っていますが、中の実際の寸法などは判明していません。そのあたりをどう捉えるか整理したうえで、お客様に、お庭を見ていただきながらくつろいでいただける場にできたらと考えています。</p>
丸山座長	<p>整備計画の中で、これが撤去される前の整備と、撤去したときの整備と、ここの部分だけはそういう2通りの整備方針を、整備計画を立てなければいけないということですか。</p>
仲副座長	<p>将来的課題と書いてあるところは、まだ図化していないわけですね。第6次工事以降ですよ。</p>
事務局	<p>わかってくるタイミングと、史料や発掘調査の結果によって、明らかにこれはこうだという方針が言えれば具体化していくと思います。今の時点では、それをどうするという事は言い切ることはできず、将来的課題と書かせていただいています。</p>
仲副座長	<p>耐久年限というのは、いつなのですか。</p>
丸山座長	<p>もう、そろそろです。吉川需さんが少し関わった話だけれども、どこまで関わったかわからないですからね。</p> <p>名古屋市としては、天守閣は危ないということで考えられているので、同じようにここの耐久年数というのを念頭に入れておかないといけないかと思います。</p> <p>復元の場合は、史料ももちろんありますけれど、絵図しかないので、絵図でどこまで復元できるか。写真があるかどうか。御殿と違ってそんなに写真、絵図はないと思います。</p> <p>ここは少し違うけれども、猿面茶屋をどういうふうにするか、そういう話も出てきます。あれはずっと義直のころから、そのあとの斉朝のときにもあったと思います。戦前、猿面茶屋は残っていて、あちらこちらに移築されました。絵図に御所車みたいな形の手水鉢があります。今茶庭のところに遺っているものじゃないかと思います。ああいうものがひょっとして、ここに持って来られるかなど。ただ、二之丸御殿がある程度できてからの、鎖之間のところで。ちょっと名勝から外れますけれど。例えば二之丸御殿の平面的なものが、だんだん明らかになって、こういうものがでてくると、そういうところも名古屋城の売りになると思うので。</p>
仲副座長	<p>そのあたりは全体会議で検討されているのですか。</p>
丸山座長	<p>していません。猿面茶屋については全然されていないです。実際に見た感じ、茶庭のほうにあった手水鉢は、ここだと思います。</p>
仲副座長	<p>向こうのほうで現状維持しようとなったときに、先に持ってきてしまうわけにはいかないですよ。</p>

丸山座長	<p>だから、猿面茶屋を復元的に整備する場合は、そういうことも考えて。ちょっと名勝から外れているから、こっちで言っているかどうかわからないけれど。そういう話もあるということです。</p> <p>白根先生、いろいろ調べていただいて、今の段階でご意見とか、感想があれば。どうですか。</p>
白根オブザーバー	<p>この庭をどうやって、今後整備していくかというところで。9ページで、公開計画検討図で、通常は立入禁止というのは、基本的にそのまま入れないということですか。来ても見られない、中まで入れないということになるのですか。</p>
事務局	<p>安全性と遺構保護の観点から、普段から自由に入れる状態だと、傷んでしまうだろうとか、お客様が転ぶだろうとかいうところを図に青で示しています。例えば期間限定ですとか、学芸員さんと一緒に歩こうというようなイベントができれば、そういう特別なときには募ってご覧いただけることもできるかと思います。</p>
白根オブザーバー	<p>築山とか二子山などとかは登れるのですか。栄螺山なども限定、上のほうに上がれるようなかたちにはならないのですか。</p>
丸山座長	<p>今造っていますが、結構崩れやすく、人が数珠つなぎで登られても崩れてしまうので。期間限定もあるし、人数限定などでやっていかないといけないかなという部分だと思います。本当は自由に見ていただけたらいいのですが。殿様でも、特別な人しか、こんなところ登らせなかったと思いますけれど。</p>
白根オブザーバー	<p>どこか高いところから見られるようなかたちにはならないのかと。池泉回遊式庭園の特徴でもあるので。</p>
丸山座長	<p>権現山が可能性としては、一番高いかもしれないです。</p>
白根オブザーバー	<p>築山から見下ろす、庭園全体を見下ろせるような場所がないと、なんか。</p> <p>難しいのかもしれませんが。整備して、見えないというのもどうなのかなと。ちょっと素朴な疑問です。</p>
丸山座長	<p>一般の方もそうだと思いますけれど、名勝で整備したものが破壊されても困るということもあって、そうなのですから。ただ園路では、先ほど言った二子山の深いところとかは歩けると思いますけれど。</p>
仲副座長	<p>なかなか難しいのは、ほかの回遊式庭園などは、わりと公園に整備する段階で、園路を拡張したりすることもあります。ここはずっと飛石でくるわけですね。入口がたくさんあって。そうすると行きかうときに、どうしても崩れてしまいます。言われるように、回遊式庭園を、一方通行にして強制動線としてきっちり設定するのか、どうかというところですね。</p>

丸山座長	それは今後の活用の、整備しながら考えていかなければいけないと思います。
仲副座長	途中で、中に入ったら迷路みたいに、最終出口まで抜けられませんとなると、もう出ないといけないというときにどうする、そういうのもあります。
丸山座長	野村さん、造園家として、今仰ることはありますか。
野村オブザーバー	先ほど先生方がお話されたように、貴重な遺構です。やっぱり見ていただきたいですね。そして、わざわざもう1回ここへ来たいと思わせるのは、そういうところへ入れることですね。ぜひともなにかのかたちで実現してほしいです。特に権現山の上へ上がって、
丸山座長	権現山は可能性ありますよね。
野村オブザーバー	眺望するというのは、非常に重要ですので。表から見ると、行って来いというわけにはいかないでしょうから、どこか後ろのほうで一方通行の道を造ってやるというのもあるでしょうけれど。 もうひとつは、部分、部分に案内板をつけるとなっていますが、総合的に、ここは結構おもしろい庭なのです。儒教の世界があったり、茶の世界があったり。そういう時代の変遷が、そのまま庭に反映されていくので、総合的に時代とそういったものが学習できるコーナーがあるといいのではないかと思います。それを今度は見に行こうと、っていう感じになっていくという。それをずっと系統たてて見せていくと、時代と庭の性格がもっと出てくるといいと思います。頭で勉強しないと、わからない庭なのです。そういう学習をさせる場所がないといけないと思います。
丸山座長	今のお話は、たとえば二之丸御殿を整備するときに、インフォメーションセンターとか、ここ自体の説明するような。二之丸御殿もやっていますよね。
野村オブザーバー	そうそう、そうそう。
丸山座長	あれと同じようなものが、やっぱりいるでしょうね。
野村オブザーバー	あわせて、ここではまだ無理でしょうけど、御深井御庭のほうも。こういったものから大名庭園の、池庭のああいうものが始まったという。少し尾張よりの見方をすれば、いわゆる大名庭園は、名古屋の庭から始まった、というくらいのことを書きたいというのがあります。家光はこれを見て、江戸城の庭を造ったという、そんな話もできるような学習センターがあるといいと思います。
丸山座長	インフォメーションセンターをどっかに。整備計画の中で考えてほしいと思います。そういう話を前に言ったことあるのですけれど。その後何か、消えましたか。区画の中に、これを全部は復元できないから、桜

	<p>之間でもいいですし、そういうようなところに説明できるようなセンターを作って、ここの庭全体の成り立ちとか。二之丸御殿、ああいうことをされていますよね。あんなに大きなことはできないでしょうけれども。少なくとも発掘、義直時代の図面と今は違うとか。そういうインフォメーションセンター的なものをどこかに作るというような。整備計画案ですから、そういうものも書いておいてもらったほうがいいかと思います。前、そんな話があったと思います。どことは言わないですけども。</p>
事務局	<p>どこかにそういったものができれば、来ていただいた方への説明、解説、PRになると思います。</p>
丸山座長	<p>グッズも売らないといけないからね。</p>
事務局	<p>そうですね。具体的に、今の段階でどこでということまでは言えませんが、理解を深めておもしろいな、と思っただきたいので、そういった場所をどこかにという気持ちはあります。</p>
丸山座長	<p>それと、御茶屋がありますよね。潰してやり直さなければならぬのなら、あそこがチャンスだと思います。</p>
事務局	<p>その中で、ということですね。</p>
丸山座長	<p>その中に作るという。</p>
野村オブザーバー	<p>一昨年、実はここのモデルになったとも言われている、天台山の石梁に行ったのです。ちょっと大変なところなので、簡単に手がとどくところではないです。行ってみたら、それはそのまま昔ながらありますけれど、下のところにわざわざ天台烏薬の木を植えているのですよ。圃場みたいになっていて、ちゃんとパネルで展示してあるのです。同じことをやっているのだ、って思いました。逆に言えば、植木をここで販売してもいいわけですよ。天台烏薬の木を。</p>
丸山副座長	<p>もっと植木屋があったのだから、そこで菊の何かいろんな趣味人がいっぱいいるから、そこで展示してもらったり。</p>
野村オブザーバー	<p>活用するというか、いろいろ展開するということは、ものすごくポテンシャルになります。このあたり。お茶も、当然そうです。</p>
丸山座長	<p>整備計画の中にも、活用の方向性みたいなものを書いておいていただいて、積極的に、金シャチ横丁よりレベルの高いものを。横丁じゃないけど、ここでやるというのは。例えば、料理もそうです。今きしめんか何か売っていますが、そうではなくて、ある程度、ここにきたらレベルの高いものが、徳川園がやっていますよね。仕出しか何か。ああいうやり方もあるので。庭だけではなくって、名古屋市さんもここで、もうかるかどうかはわかりませんが、そういうことも考えてもらって。なお一層、人気出るかと思います。</p>

高橋構成員	<p>長期的に、やっていく事業なので。活用のことを考えたときに第1次開園、第2次開園というような感じになると想像されます。つまり、今整備している北御庭のところの周辺をまとまって整備して、第1次開園みたいなかたちにもっていく。活用しながら整備していくという面では、そのような方法がいいのではないかと思います。事業的に可能かどうかはわからないのですが、今第4次工事ででているようなエリアや、御茶屋のところの活用は、第1次開園に間に合わせるようなかたちでやっていったほうが、効果的ではないかと思います。先生方にもご意見うかがいたいですが、活用施設と北御庭が、一緒に第1次開園となると使いやすいのではないかという印象があります。</p>
丸山座長	<p>ここを出してきたのは、工程計画が全然示されていないので、いろいろな工事計画、整備がありますよね。そういうのがざっくりでいいのですけれど。6次計画、6次工事ということで計画されていますが、それぞれ1次、2次からずっと並べていってもらって、一覧表でわかるようにしてもらえたらと思います。</p>
事務局	<p>表にして、何年、何年と、いつにどのへんが完成していくかを整理して、</p>
丸山座長	<p>年はむりでしょうけど、</p>
事務局	<p>時期ですね。</p>
丸山座長	<p>短期、中期、長期というようなことで、各工区を。最終的に10年くらいかかるかもしれないですけど、10年でできるかわからないですけども。10年くらいでやらないといけないから。こっちの命なくなるから。具体的にそういうのをやってもらうと、具体性がでてきます。今まで、平面図なので、こうやるということと、どういう事業が移っていくのかわからないので。天守閣のほうで、こういう工程表をやっているのを見て、参考にしてやってもらえればと思います。</p>
仲副座長	<p>二之丸庭園というのは普段、お客さんがお越しになって、どこからどういうふうに見ているのかというのが、わかりにくい庭だと思っています。ご覧になって、全体の、当時の響応のときの使われ方の動線もあるでしょうけれど。現代として、ある程度まとまりがつくようなかたちで見学動線を設定して、そこで解説をして、1回ここから入ってくると出てきて、また次のところから入るといったようなのが、わりとわかりやすいのかなと思います。</p> <p>季節によって観るところが変わるので、そういうふうに変更するっていう提案ですけど。そのときのアイデアも示していただけたらと思います。</p>
丸山座長	<p>植栽のことがいっぱい書いてありますが、このとおりは植えられないと思います。建前上、書いてもらっておいてもいいけれど。</p>
仲副座長	<p>3ページですか。</p>

丸山座長	<p>例えば3ページで、尾二ノ丸絵図などがあるから出してもらっているけれど。この本数を植えたら、とてもじゃないけれど植えきれない状況もあります。樹種などは出してもらってもいいけれど、場所などは、こういう感じですよ、くらいだと思います。前にも言っていたように、今後造成されるときには東門から入ってきて、剪定されているクロマツがいっぱいあります。ああいうものを将来的には、こっちに持ってくるというような植栽計画も、現在あるものをどうするのかということも含めて、新たに購入して植えるよりも、城内に結構使えるものがあるので。そういうものを使うことを前提に考えてほしいです。これは石材バンクと一緒にですけど、一応全体会議で、議事録に載ると思うので、石材バンクのことは、考えてもらえるかと思いますが。植栽のほうも。1年あったら、根回ししてできますから。</p> <p>それから南御池は、埋め戻したのですね。</p>
事務局	<p>終わりました。危険なので。</p>
丸山座長	<p>あそこで、かなりの土があるので、掘ったものを東御庭の造成のほうに持っていけるような、柔軟な考え方も。一度に土地造成はできないから、そういうことも考えてほしいです。工程表の中でいろいろ発掘したら、土砂が出てきます。それをこっちにもってくるというようなことが、計画段階でいるのではないかと思います。ただ単に絵図からだして、ここをこれくらいの高さにしますよっていうのはでるけれど、その土はどうするのか。そのときに、南御池の土砂をもってきて、もってくるだけではなくて、表面は土壌改良してもらって仮に芝貼りして、1、2年はおいておかないといけないと思いますけれど。表土が雨で流れないように。そういうことも柔軟にやっていかなければいけない。そのためには、工程表がいるのではないかと思います。もったいないよね。1回掘ったのに、また戻していく。土が。2度手間、3度手間やっているわけですね、だいぶ前に。昔掘ったものを、もう1回戻して。</p>
事務局	<p>発生した土を、中で有効に活用してムダを出さないようにということは、可能な限り承ってやっていきます。今のところ、東御庭については、切土がたくさんでるのではないかと考えています。その切土だけでも、東御庭の築山を造って、なお多分搬出しないといけないくらいの量がでるのではないかと見込んでいます。それは今後、もう少し発掘調査の結果もふまえて造成の土量などを検討したうえで、きちんとおさえていきたいと思っています。</p>
丸山座長	<p>それと現物を見せるところと、覆土してから上に再現するところと、いろいろありますよね。北御庭の池は、現状を見せると。先ほど言われた霜傑は、上に土盛りすると言われましたけれど、発掘している状況も見せてもいいかなという気がしてきています。あれ、埋めるってことはないですよ。</p>
事務局	<p>今の霜傑がすでに、その下に本物があつて上が、</p>
丸山座長	<p>造られていますよね。それにもう1回盛土しているのですか。今日の</p>

	話は。
事務局	盛ると言いますか、腰高くらいの高さに立ち上げたくらいのものを見せるような場所にできないかと考えています。
丸山座長	木か何かでやるということですか。
事務局	そうです。
丸山座長	そういう意味ですか。
事務局	素材は別ですけど。
丸山座長	霜傑はそうするし、二子山は掘ると、いろいろやり方が何とおりもありますよね。
事務局	延段などは遺構の上を直接歩いていただくわけにはいかないの、同じものをもう一層上に造らなければいけません。それを続けていった先には、飛石の本物を見せたいということもできます。そういうところを、高さが擦りつくように調整しながらと考えています。
丸山座長	いろいろ柔らかく対応しないと、できないかと思います。 鹿山というのは、何からでてきた山ですか。見ていて、鹿山って気が付かなかったのですけれど。これは尾二ノ丸からですか。4ページの南御庭のところの行者越というのはあったと思いますけれど。鹿山は、鹿が描いてあった絵がありましたよね。それで鹿山ですか。
事務局	尾二ノ丸とかに、張り紙があって。
丸山座長	尾二ノ丸ですね。
事務局	尾二ノ丸ではなくて、もうひとつ別の絵があったと思いますけれど。そこに南庭園について、いろいろな名称が書いてありました。
事務局	尾二ノ丸にも書いてありました。
丸山座長	鹿が、白い、
事務局	それと、ほぼ合致します。絵の部分と字の書いてある山が、ほぼ一致するところがおもしろいなど。
丸山座長	あれは置物ですか。
事務局	わからないです。
丸山座長	鹿だったら、下層植生を全部食べられてしまうから。

仲副座長	今、お堀の中にいる鹿は、あそこから出ないのですか、ずっと。
事務局	出ないです。
仲副座長	何頭いるのですか。
事務局	2頭です。雌が2頭です。親子です。
丸山座長	2頭くらいいたね。雄がいなかったらいいですけど。雄がいて増えたら大変ですよ。 整備計画の目次みたいなものは、まだですか。仮目次みたいなものは。
事務局	本日も用意はないです。
丸山座長	今日ではなくて、だいたい。
事務局	中間案として年度内一度に取りまとめます。本日いただいたご意見をうけて、見直す部分は見直して、一度取りまとめたものを3月の半ばくらいまでに先生方にもう一度ご覧いただけるようにしたいと思っています。
丸山座長	ほかにいかがでしょうか。この後、外に行っていただいて、景石をどうするかとか。不陸のところは直さなければいけないと思いますけれど、そういうところを確認してもらうことは大きいかと思えます。 では、次に移らせてもらいます。また戻ってもらっても結構ですので。これで検討をすむわけではないので。4の修復整備工事について、ご説明をお願いします。
	(2) 令和2年度修復整備工事について
事務局	今ご用意しました図面は、前回とほとんど同じです。先ほど丸山先生が言われたように、景石の修復、樹木の伐採については、現地で先生方のご意見を伺って、これはやめとく、これは直すというのを聞きしたいと思っています。 園路ですが、今年の南池の発掘調査でてきた飛石のところが、三和土で押えられた飛石でした。ここのこういう園路も、那智黒の砂利石が飛石のまわりにあります。歩きやすさを考えて、三和土にしていってどうかと考えています。いかがでしょうか。これは、来年必ずしもできるというわけではありませんけれども。
丸山座長	不陸を起こしているところを整備したときに、三和土で固めたという意味ですか。
事務局	飛石のある横が今、那智黒の石ですが、かなり凸凹するということもありますから、それをもう少し将来的には三和土で押えたらどうかという考えをもっています。

丸山座長	発掘の成果としては、どういうことが言えますか。砂利は後代にやったものかもしれませんけれど。
事務局	今の園路の飛石の下のところの発掘というのは、行っていません。
丸山座長	それは一応、いくつかのところでトレンチでやってもらってからでないと、いきなり三和土というのは無理かと思います。痕跡があって、あとどうするか検討しないといけないです。とりあえずは、言われるようになりガタガタするので、観光客の方はちょっと大変だから、不陸は直さないといけないと思います。本格的にやるには発掘が必要です。明治の頃にだいぶ改変されているので。ちょっと難しいと思います。いきなり三和土で固めるといのは、全体計画の中で、そういうことができればやればいいと思います。個別にここだけ、どんどん進めるわけにはいかないと思います。
仲副座長	実験的に一部やってみるといのも、おもしろいとは思いますが。
丸山座長	あまりやらないほうがいいです。やったら、あれのほうがいいじゃないかと言われたら、行政としてやらざるを得なくなるので。これは現場に行って。伐採木も挙げる。伐採木は、もっとほかを切れと言ったら、切れるのですか。
事務局	現状変更はこれから申請しますので、大丈夫です。
丸山座長	これからですか。それなら木のほうもちょっと見ていただいて、追加で切ってもら。入ったところの東門のマキを3本切れというのは、書いてないですか。
事務局	そちらは以前お伺いして、来年度の修復整備工事で予定しています。
丸山座長	切ってもらえるのですか。
事務局	そのつもりです。
丸山座長	クロガネモチは。
事務局	それは、また段階的に。
丸山座長	あれを切ったら、権現山がよく見えるので。 それでは、その他について事務局からご説明をお願いします。
	6 その他
事務局	その他は、報告事項です。今年度の発掘調査の状況についてのご報告をさせていただきます。南池については、前回皆様にご覧いただき、埋め戻しまで完了しました。風信の箇所と南蛮練塀の箇所について、年度

	<p>内に、この2か所はなんとかやれることが決まりました。風信から、今週半ばくらいから入り、南蛮練堀も含めて年度内に発掘調査を行うことを考えています。今年度できなくなった東庭園の箇所については、来年度の発掘の中であわせて行っていきたいと考えています。残りの二之丸御殿については、今後発掘調査をどういうふうに進めていくか検討する中で、改めて時期を考え直したいと考えています。</p> <p>報告書の作成ですが、平成28年から30年までにかけての第4次から第6次までの発掘調査の成果を、今取りまとめしています。取りまとめが年度内にできて、印刷・製本したものを皆様にご覧いただけたと思います。こちらについても、皆様に送らせていただき、ご覧いただけるように準備を進めています。</p>
丸山座長	<p>ご報告について、何かご質問があればお願いします。 ないようなので、事務局へお返しします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。本日いただきましたご意見を基に、整備計画については修正したうえで、先生方に個別にお送りいたしまして、ご確認いただき、まとめていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>このあと、現地でのご指導をお願いするということで、庭園部会としては、一度ここで終了させていただき、そのあと現地指導をお願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。</p>